

今年の桜は遅かったですね。でも、久しぶりに桜の下の入学式ができて喜んだご家族も多かったようです。連休はどう過ごされますか？

//// I N D E X //////////////////////////////////////

- ・ ISO 関連情報...-----カーボンニュートラリティの新提案
サーキュラーエコノミーの新規格 (FDIS が承認されました)
環境ラベルへのマスバランスモデルの適用
ここ数日で DIS が承認された規格
- ・ LCA の実務 mini 16---- 再度：マスバランスモデルは LCA にも CFP にもありません。
- ・ LCAF からお知らせ...2024 年度の LCAF オンライン研修と検定の日程です。
- ・ 編集後記.....

■ LCA 関連情報 ■

○カーボンニュートラリティの新提案

3 月末に、ISO/TC207/SC7 に英国からネットゼロガイドライン (IWA42:2022) を国際標準規格 (ISO 14060) にする新提案がありました。IWA42:2022 は組織のカーボンニュートラリティの国際ワークショップの合意文書です。国際標準規格ではないので、無料で公開されているためだと思いますが、70 カ国以上から 55,000 件以上の閲覧やダウンロードがあったとされています。

IWA42:2022 の国際標準化の提案は、いずれあると思っていたので、それ自体は驚かなかったのですが、なぜ ISO14060 なのか？ とびっくりしました。LCAF 通信 No. 67 に書いたように、発行直前まで「ISO14068:2023 Greenhouse gas management and climate change management and related activities-Carbon neutrality」という題名だったカーボンニュートラリティの規格が、何の説明もなく、「ISO14068-1:2023 Climate change management-Transition to net zero-Part 1:Carbon neutrality」と、どこにもなかった「Transition to net zero」が付いて「ISO14068-1」として発行されました。このとき、「ネットゼロ」と「-1」が付けられたので、「-2」は IWA42 の国際標準化だと思っていたのですが、私の予想がはずれました。

4 月末までの各国投票になっています。どうなるか、結果がでたら報告します。

○サーキュラーエコノミーの新規格

4 月 18 日に TC323 (サーキュラーエコノミー) の最初の 3 つの規格、ISO59004 (用語と原則)、ISO59010 (ビジネスモデルのガイダンス)、ISO59020 (サーキュラリティの測定と評価) の FDIS が承認されたという連絡がありました。FDIS になるともう何を言っても受け付けないということになるので、60 数カ国の中で、反対が 1, 2 カ国、棄権が約 10 カ国という状況です。

おどろくのは、すぐに改訂が予定されていて、そのためのこれらの規格の受け入れ状況のアンケートが既に行われているということです。改訂されることがわかっている規格を誰がつかうのでしょうか？

○環境ラベルでのマスバランスモデルの使用

タイプ I (エコラベル: ISO14024)、タイプ II (自己宣言; ISO14021)、タイプ III (EPD: ISO14025) の改訂作業が 4 月 14 日 (日)~4 月 19 日 (金) にストックホルムで行われました。TC207/SC3 (環境ラベル) の国内審議委員会の委員長として参加しました。いずれの規格でもマスバランスモデルの使用が議論されました。

タイプ III (EPD: ISO14025) では、「マスバランスモデルを使う時はその方法を書く」という記載になりました。タイプ II (自己宣言; ISO14021) では、リサイクル率の算定で議論になり、マスバランスモデルという言葉を使わずに、リサイクルされた量の算定に「割り当てられた量を含む」ことになりました。タイプ I (エコラベル: ISO14024) ではマスバランスモデルについては議論されていません。

このストックホルムでの作業の結果は 6 月末に CD として発行され、各国のコメントを求める投票が行われます。11 月末にそのコメントについてワーキンググループで作業をします。

一方、マスバランスモデルの詳細を決める TC308 の ISO13662 が CD 段階にあり、各国のコメント投票が行われています。6 月中旬にオランダでコメントに対応する作業が行われます。環境ラ

ベルの改訂作業は、その後に CD へコメントすることになるので、この ISO13662 の改訂作業の進捗を見ながら進めることとなります。ISO13662 の現状については次号以降に報告します。

○環境ラベルの適合性評価

前号 (LCAF 通信 No. 68) で宿題になっていた環境ラベルの適合性評価の進捗です。タイプ III (EPD: ISO14025) では、GHG 排出量の検証で使われる ISO14065:2020 を使わずに新しい ANNEX で検証 (verification) の方法を書くことになりました。今後の議論を見る必要があります。タイプ II (自己宣言; ISO14021) では、ISO14020:2022 に従うことになりました。したがって、適合性評価の ISO/IEC 17000:2020 を参照することになります。タイプ I (エコラベル: ISO14024) : これも ISO/IEC17000:2020 に従います。前号で約束した ISO/IEC 17000 : 2020 の適合性評価の勉強は、次号にさせていただきます。

○ここ数日で次の DIS が承認されました。

ISO 59014 (二次材料の持続可能性とトレーサビリティ)

ISO 14075 (ソーシャル LCA)

ISO 14071 (クリティカルレビューの方法とレビューア的能力)

ISO 14072 (組織の LCA)

いずれも反対は数カ国でしたが、ISO 14075 (ソーシャル LCA) では、提案国であり議長をだしているドイツと、参考にされているガイダンスを作成している主要国であるオランダが反対していることです。日本も反対しました。個人的にはまとまりがない規格だと思っています。

■■ 再度：マスバランスモデルは LCA にも CFP にもありません。 ■■

LCAF 通信 No.59 (2023 年 7 月 17 日号) の「LCA の実務 mini5」で「マスバランスアプローチは Scope3 基準にはありません」と書きました。これは、あるコンサルさんに「Scope3 基準に「mass balance」があるからマスバランスモデルが使える」と言われたという人への答えです。

今度は、ISO 14067 と ISO 14064-1 に「Site-specific data refer to either direct GHG emissions (determined through direct monitoring, stoichiometry, mass balance or similar methods)」と書いてあるので、マスバランスモデルが使えると言われたという人から質問がきました。

しかし、この文章の「mass balance」は工学でいう「物質収支」のことです。その前の「stoichiometry (化学量論関係)」とほぼ同じです。今話題の「マスバランスモデル」ではありません。ISO14067:2018 です。2018 年の改訂当時 (14067 の最初の版は 2013 年発行です) マスバランスモデルを考える人はいませんでした。どこかのコンサルさんが、ISO14067:2018 に書いてあると言いふらしているようですが、完全な誤解です。

マスバランスモデルと並んで話題になっている電力のマーケットベースの算定は、マスバランスモデルが書かれている ISO 22095:2020 では「ブック and クレームモデル」といいます。これは、LCA の基本である ISO14044:2006 にはありません。また ISO14067 も、2013 年の最初の版ではマーケットベースは許容されていません。このころまでは、電力のマーケットベースも考える人はいなかったということです。しかし、2018 年の改定でマーケットベースを許容しました。この頃に、再生可能エネルギーの重要性が認識された結果と思います。

ついでに言うと、ISO14044:2006 には、植物による CO2 の固定については何も書かれていません。しかし、ISO14067:2018 では植物関連の算定が詳細に書かれています。この頃に脱炭素が重要になったことの現れです。ISO の内容は、その時々に関心事が反映されています。発行された年次に注意して読む必要があります。

マスバランスモデルは、何とかして GHG 排出量を少なく見せようと思う人には悪魔的な魅力があるようです。しかし、ISO の LCA 及び CFP にはまだ何もありません。「ISO の LCA 及び CFP、並びに Scope3 基準に書いてある」という説明には気を付けてください。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

○今年度の LCAF オンライン研修と検定の日程が決まりました。

内容は <<https://lcaf.or.jp/education/>> をご覧ください。皆様のご参加をお待ちします。

・LCAF オンライン初級研修

第 1 回 : 5 月 29 日 (水) ・ 5 月 30 日 (木)

第 2 回 : 9 月 4 日 (水) ・ 9 月 5 日 (木)

第 3 回 : 12 月 18 日 (水) ・ 12 月 19 日 (木)

- ・ LCAF オンライン中級研修
第1回：7月31日(水)・8月1日(木)
第2回：11月13日(水)・11月14日(木)
- ・ LCAF 初級検定
第1回：7月6日(土)
第2回：10月26日(土)
第3回：2025年3月1日(土)
- ・ LCAF 中級検定
第1回：9月28日(土)
第2回：2025年1月25日(土)

○[好評につき増刷します。] 参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」
以下からお申込みください。(3,000円+税+送料)です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

この参考図書の図表をパワポに貼り付けた資料の販売を始めました。価格は要相談です。

■ 編集後記 ■

ストックホルムに行ってきました。日本を出るときは 23℃。乗り換えのパリの空港は 25℃だったのですが、ストックホルムは毎日最高気温 10℃程度で東京の真冬のような感じでした。ヨーロッパに来るといつも驚くのは、こんな狭いところで、気候も、生活も大きな違いがあるということです。

ドイツやフランスから見ると、アルプスを越えたイタリアなど地中海の気候と生活がとても明るく映るのは納得できます。アルプスだけではなく、ピレネー山脈やバルト海によっても複雑な気候区分が生まれ、生活の違いになり、人種の違いもからみあって、複雑な政治的な状況が生まれやすくなっているのだと思います。

私は高校で日本史を選択したので世界史の勉強はしていませんが、世界的に有名な城や古い都市を観光すると、ついこの間の第二次世界大戦まで、この狭い地域で戦争に明け暮れていたことがわかります。いや、その流れがまだウクライナやパレスチナで続いているのだと思います。

それを思うと、私が関与している環境関連の ISO で各国が協力しようとしているのが驚きです。少しの意見の違いなど気にしてはいられませんね。

タイプ I (エコラベル：ISO14024)の作業に、オンラインでしたがロシアからの参加がありました。私が関与した様々な ISO の会議で、ロシアからの参加があったのは初めてです。美術館で見たエカテリーナ女帝に似た人でした。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7 アルテール池袋 608

電子メール：lcaf-contact@lcaf.or.jp

URL:https://lcaf.or.jp/